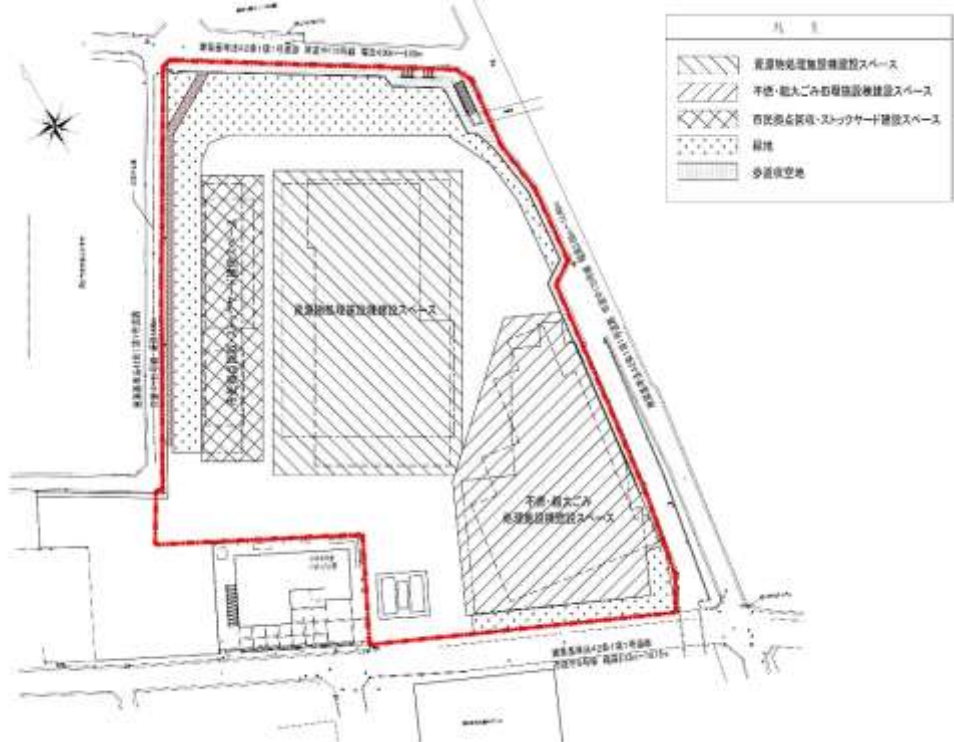
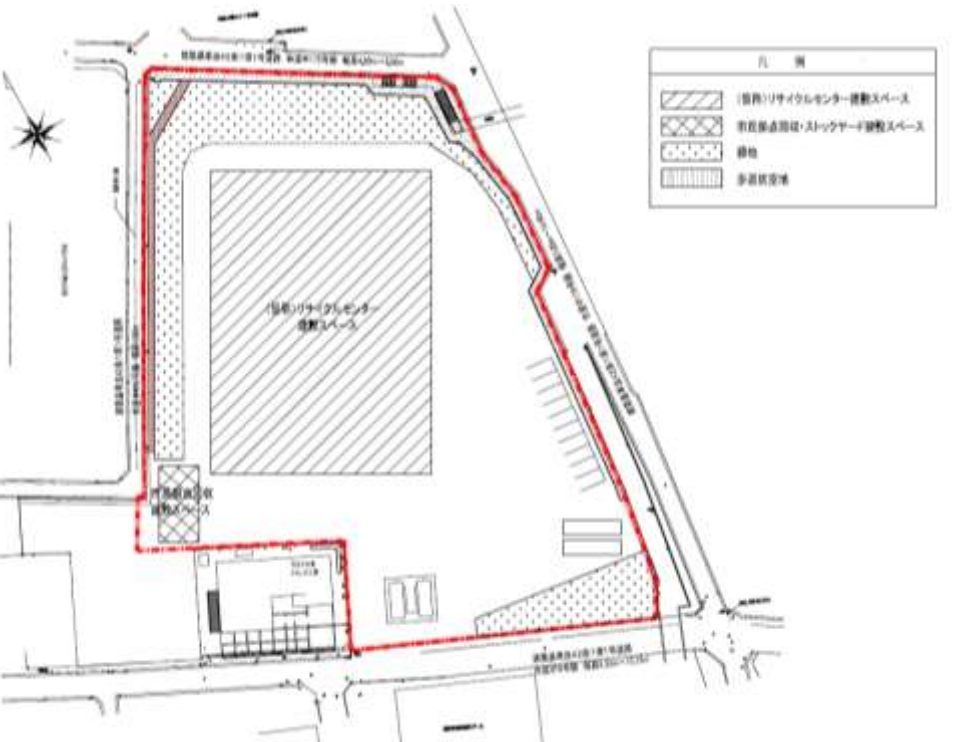
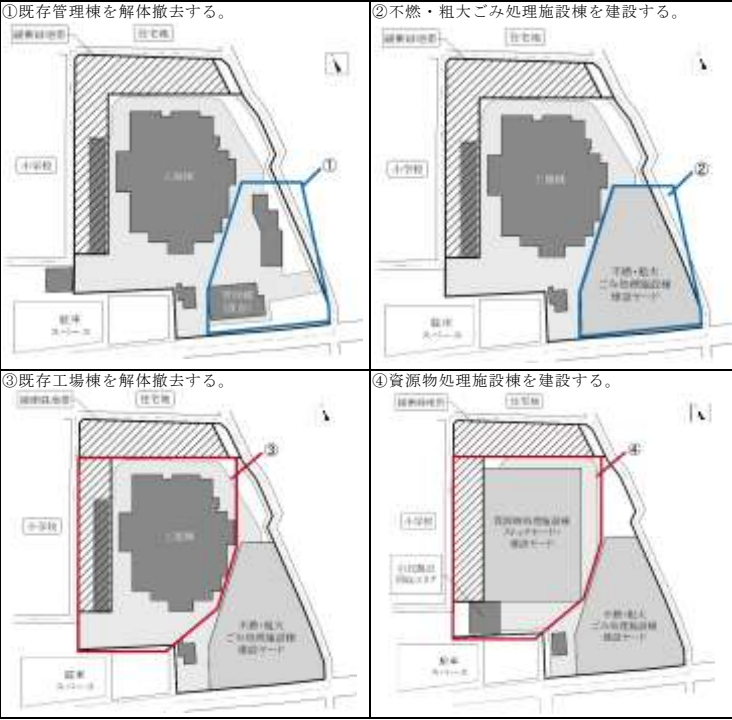
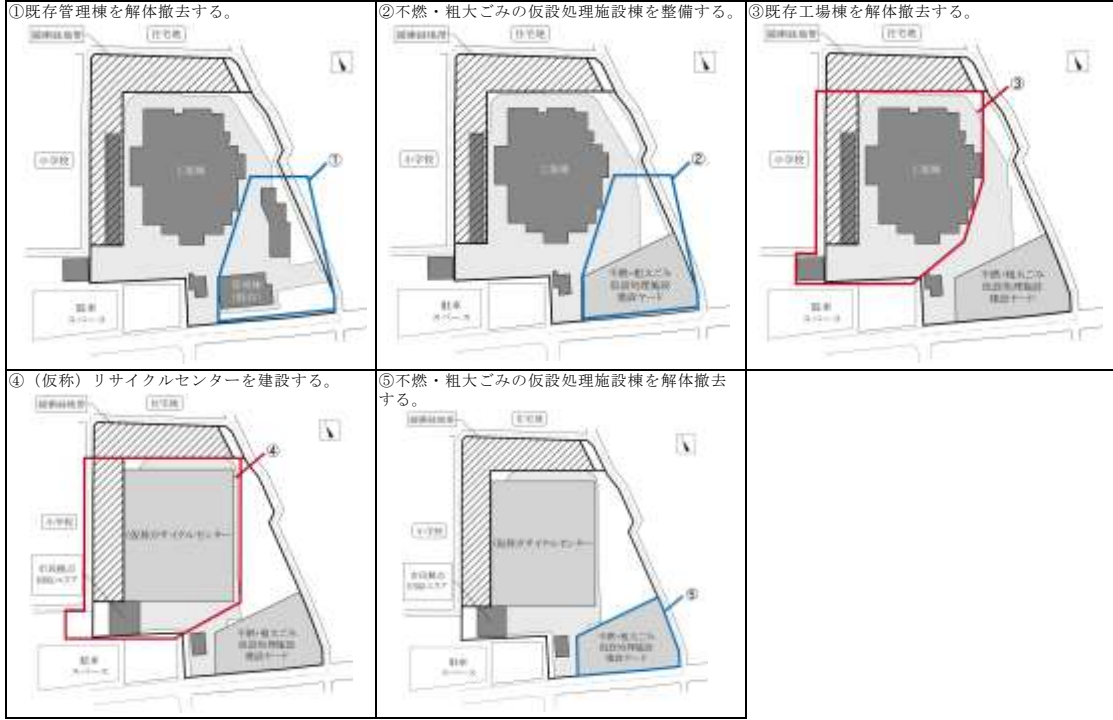


整備方法の比較

	段階整備（変更前）	一括整備（変更後）
施設配置イメージ	 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 資源物処理施設建設スペース 不燃・粗大ごみ処理施設建設スペース 市民拠点回収・ストックヤード建設スペース 緑地 歩道積留地 	 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> （仮称）リサイクルセンター建設スペース 市民拠点回収・ストックヤード建設スペース 緑地 歩道積留地
整備手順概要	 <ol style="list-style-type: none"> ①既存管理棟を解体撤去する。 ②不燃・粗大ごみ処理施設棟を建設する。 ③既存工場棟を解体撤去する。 ④資源物処理施設棟を建設する。 	 <ol style="list-style-type: none"> ①既存管理棟を解体撤去する。 ②不燃・粗大ごみの仮設処理施設棟を整備する。 ③既存工場棟を解体撤去する。 ④（仮称）リサイクルセンターを建設する。 ⑤不燃・粗大ごみの仮設処理施設棟を解体撤去する。
管理運営の利便性	分割型施設となるためそれぞれに管理機能を有する必要がある。	一体施設となるため利便性が高い。
見学者動線	建物を渡り廊下で結ぶことですべての設備の見学が可能。	一つの建物ですべての処理設備を見学することが可能。
市民利用	市民拠点回収スペースを設置することで工場作業エリアとの分割は可能。	同左。
工期	施設整備が2回に分かれるため工期が長い。	施設整備は1回で済むため、工期は短い。
工事内容	処理施設を稼働させながらの工事となりかつ工事エリアが狭いため入念な工事計画が必要。	一部仮設の処理設備を稼働させながらの工事となるが、工事エリアは比較的大きく取れるため、段階整備よりは容易。
コスト	<p>【工事費】 分割型施設となるため工期が長く、建物数が増えるため工事費は割高となる。</p> <p>【外部処理委託費】 工事期間中も継続して処理を行いながら施設更新を行うため、外部処理委託費は最小限で済む。</p>	<p>【工事費】 一体の建屋となるため、工事費は一般的な値となる。</p> <p>【外部処理委託費】 工事期間中は一部仮設の処理設備での処理を行うが、外部処理委託を行う品目が多くなるため、処理委託費用が割高となる。</p>